

図1 1996～2005年にセイウオオマルハナバチが野外で確認された市町村

資料2 図表

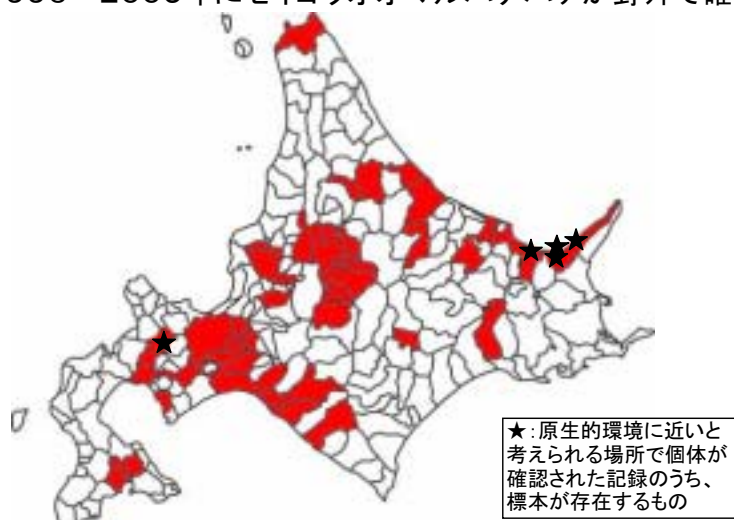


表1 国立公園付近及び原生的な自然環境におけるセイウオオマルハナバチの確認事例

確認場所	年月日	確認個体	標本保管
斜里郡斜里町ウトロ海岸	2000.7.2	複数のワーカー(標本1)	さっぽろ自然調査館
虻田郡倶知安町 羊蹄山ヒラフコース9合目(標高1720m)	2001.7.4	1ワーカー	倶知安風土館
斜里郡斜里町 斜里岳北西麓幾品川沿い	2003.9.20	1オス	美幌博物館
斜里郡小清水町濤沸湖畔	2005.6.21	2ワーカー	東北大学
斜里郡小清水町濤沸湖畔	2005.6.26	1ワーカー	美幌博物館

これまでのセイウオオマルハナバチの野外での目撃・採集頭数

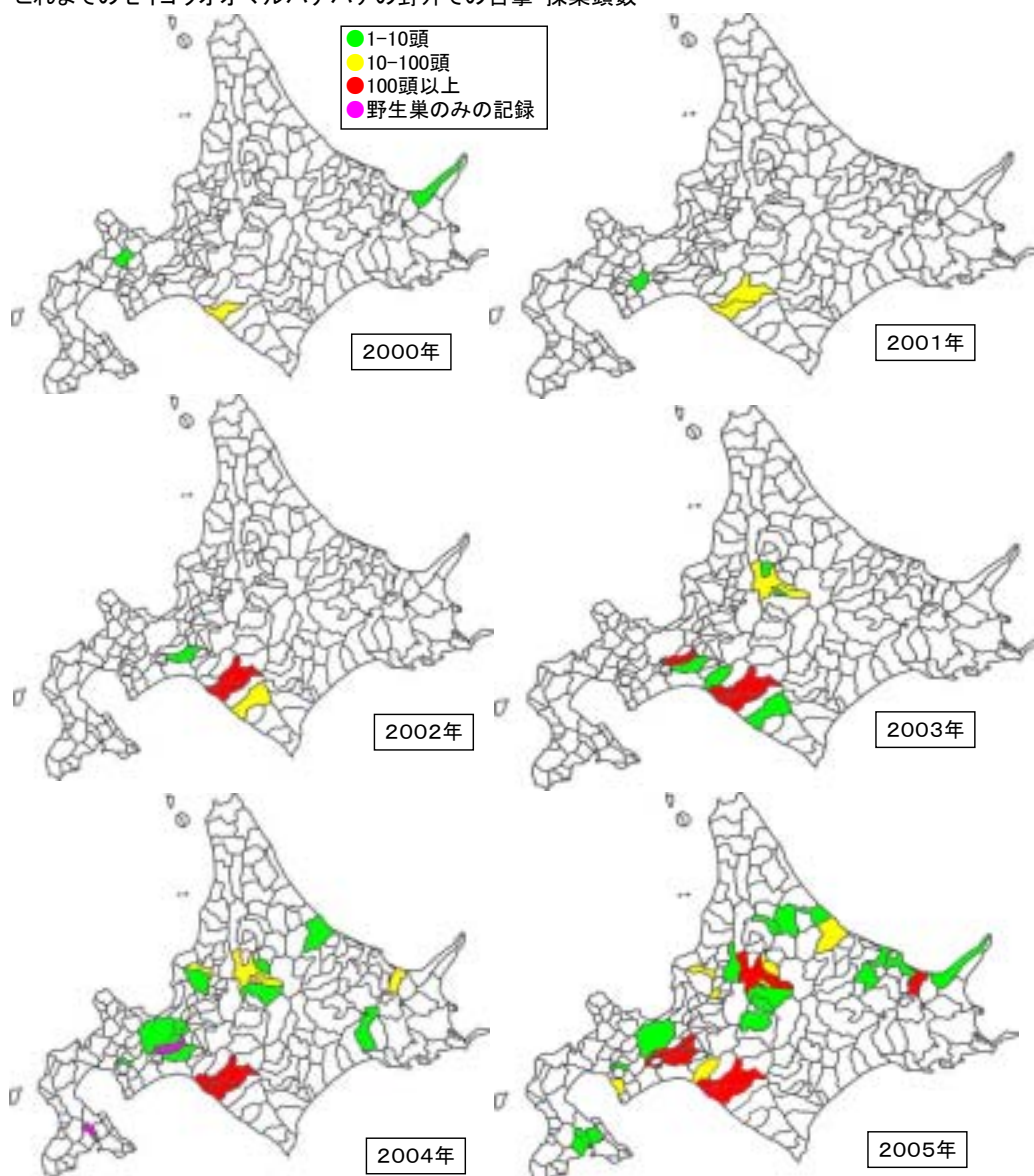
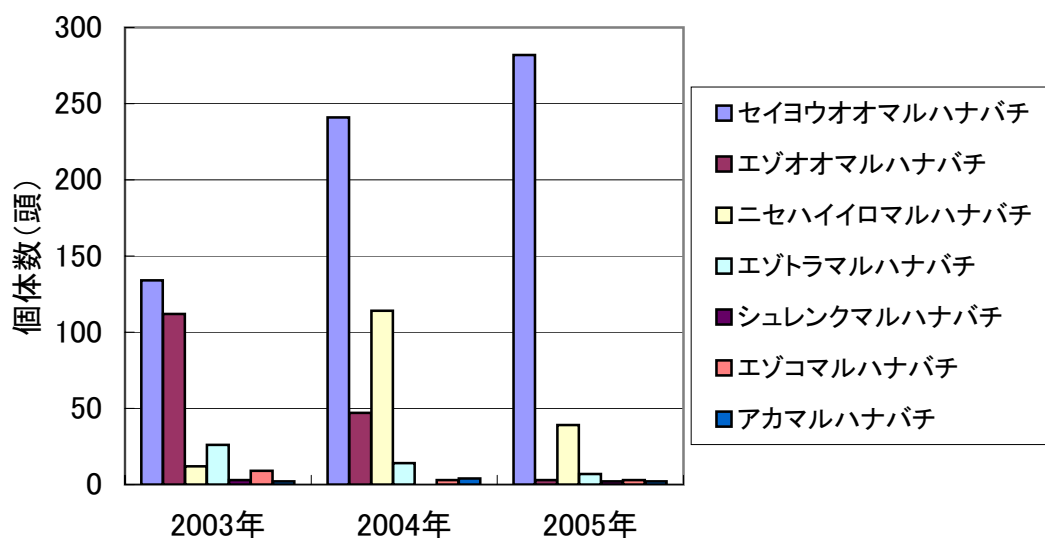


図2 調査におけるセイヨウオオマルハナバチと在来マルハナバチの確認数の変化

	2003年	2004年	2005年
セイヨウオオマルハナバチ	134	241	282
エゾオオマルハナバチ	112	47	3
ニセハイイロマルハナバチ	12	114	39
エゾトラマルハナバチ	26	14	7
シュレンクマルハナバチ	3	0	2
エゾコマルハナバチ	9	3	3
アカマルハナバチ	2	4	2

(鵜川町二宮地区で5月から7月前半に観察されたマルハナバチ類各種の観察個体数)



- ・在来マルハナバチが減少し、セイヨウオオマルハナバチが増加している。

表2 鵜川町におけるセイヨウオオマルハナバチの巣穴の調査結果

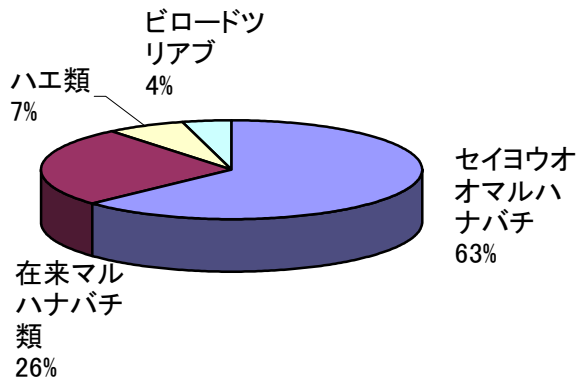
調査年	巣番号	1巣当たりの女王数(創設女王含む)	
2003	Bt-4	1	2003年平均: 1.33頭
2003	Bt-5	2	
2003	Bt-10	1	
2004	Bt-12	1	2004年平均: 1.50頭
2004	Bt-13	3	
2004	Bt-14	1	
2004	Bt-17	1	
2005	Bt-18	3	2005年平均: 4.66頭
2005	Bt-19	6	
2005	Bt-20	4	
2005	Bt-21	6	
2005	Bt-26	2	
2005	Bt-31	7	

- ・営巣場所をめぐる競争が激しくなっている。

図3 エゾエンゴサクへの訪花昆虫の比率

訪花者	個体数	割合(%)
セイヨウオオマルハナバチ	75	63.0
在来マルハナバチ類	31	26.1
ハエ類	8	6.7
ビロードツリアブ	5	4.2
合計	119	100

(平取町における調査結果・2005年4月29日～5月5日)



ハエ類やビロードツリアブは、その形態等から受粉に貢献する可能性は極めて低いと考えられる。

・訪花者の6割以上をセイヨウオオマルハナバチが占めている。



盗蜜を行うセイヨウオオマルハナバチ

(参考) エゾエンゴサクについて



エゾエンゴサク *Corydalis fumariifolia* Maxim. subsp. *azurea* Liden et Zetterl.

北海道からサハリンに分布。
 近年(1997年)、分類学的整理が行われ、本州に分布するものは、オトメエンゴサク *Corydalis fukuharae* Lidenとされている。
 4月中旬から5月上旬にかけて開花する北海道の代表的な春植物で、越冬明けのマルハナバチ女王の蜜源として重要である。これまで知られている主な送粉昆虫は、在来マルハナバチ類(アカマルハナバチ、エゾオオマルハナバチ)等である。
 塊茎を形成する多年草だが、繁殖は専ら種子形成によって行われると考えられている。
 ヒメウスバシロチョウ、ウスバシロチョウの重要な食草である。